

会社概要

(2024年9月30日現在)

社名 日東紡(登記名：日東紡績株式会社)
 本店所在地 福島県福島市郷野目字東1番地
 本部所在地 〒102-8489 東京都千代田区麹町二丁目4番地1
 創業年月日 明治31年2月 郡山絹糸紡績株式会社(郡山)設立
 大正7年4月 福島精練製糸株式会社(福島)設立
 大正12年4月 日東紡績株式会社創立
 資本金 196億円
 従業員 (連結)2,690名 (単体)793名 (2024年3月31日現在)
 ウェブサイト <https://www.nittobo.co.jp/>

●事業拠点・主なグループ会社

大阪支店 福島事業センター
 名古屋支店 富久山事業センター

日東グラスファイバー工業(株) 日東グラステックス(株)
 NITTOBO ASIA Glass Fiber Co., Ltd. 日東紡アドバンテックス(株)
 Baotek Industrial Materials Ltd. パラマウント硝子工業(株)
 ニッターボーメディカル(株) (株)双洋
 Nittobo America Inc. (株)日東紡テクノ
 富士ファイバーグラス(株) その他8社

●取締役

(2024年6月20日現在)

取締役 辻 裕一 社外取締役 藤重 貞慶
 取締役 多田 弘行 社外取締役 内藤 亜雅沙
 取締役 松永 隆延 社外取締役 中島 康晴
 社外取締役 三井田 健

●執行役

(2024年6月20日現在)

代表執行役会長 辻 裕一※ 執行役 畑中 克哉
 代表執行役社長 多田 弘行※ 執行役 伊藤 正毅
 常務執行役 林 寿信 執行役 中村 幸一
 常務執行役 岡久 靖 執行役 福島 雅夫
 上席執行役 梶田 明正 執行役 谷田 祐之
 上席執行役 梶川 浩希 執行役 安田 照太郎

※は取締役兼務

●技術統括SV

(2024年6月20日現在)

上席技術統括SV 五十嵐和彦 技術統括SV 須釜 裕司

「日東紡グループ 統合報告書2024」
を発行しました

当社ウェブサイトよりダウンロードいただけます。

https://www.nittobo.co.jp/ir/library/integrated_report.htm

株式情報

(2024年9月30日現在)

●株式の状況

発行済株式総数 37,723,012株 株主数 8,567名

●所有者別分布状況

| 金融機関 | その他国内法人 | 外国法人等 | 個人・その他 |
|------------|---------|------------|--------|
| 42.96% | 23.45% | 20.14% | 8.51% |
| 証券会社 1.92% | | 自己株式 3.02% | |

●大株主

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|-------------------------|-------------|-------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 4,464 | 12.20 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 3,057 | 8.36 |
| 住友不動産株式会社 | 2,383 | 6.52 |
| 日本生命保険相互会社 | 1,614 | 4.41 |
| 第一生命保険株式会社 | 1,316 | 3.60 |
| 住友生命保険相互会社 | 1,082 | 2.96 |
| エア・ウォーター株式会社 | 997 | 2.73 |
| 株式会社東邦銀行 | 905 | 2.47 |
| あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 890 | 2.43 |
| 株式会社みずほ銀行 | 800 | 2.19 |

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
 なお、自己株式には株式給付信託に係る信託口が保有する当社株式は含まれていません。

株主メモ

| | | |
|-------------------|--|---------|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで | |
| 定時株主総会 | 毎年6月中旬 | |
| 基準日 | 定時株主総会の議決権 | 毎年3月31日 |
| | 期末配当金 | 毎年3月31日 |
| | 中間配当金 | 毎年9月30日 |
| 公告方法 | 当社ウェブサイト内の下記アドレスに掲載します。 https://www.nittobo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 | |
| 上場取引所 | 東京証券取引所プライム市場(証券コード3110) | |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 | |
| 郵便物送付先 電話お問合せ先 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝休日を除く9:00~17:00) | |

※詳細は当社のウェブサイト(<https://www.nittobo.co.jp/>)をご参照ください。

日東紡績株式会社

東京本部
 〒102-8489
 東京都千代田区麹町二丁目4番地1

第164期
日東紡 株主通信

2024年4月1日~2024年9月30日

■株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第164期中間期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)の業績および取り組みについてご報告申し上げます。

当中間期における世界経済は、欧米でのインフレに沈静化の兆しが見られるものの、中国の景気低迷などにより、不安定な状態が継続しました。わが国経済は、企業収益や設備投資が持ち直し、景気は緩やかに回復した一方、原材料価格の高騰による物価上昇および不安定な為替相場などの要因により、先行き不透明な状況は継続しました。

このような環境の下、当社グループは長期ビジョン『Big VISION 2030』の実現に向けて本年4月より新中期経営計画(2024-2027年度)をスタートしました。持続可能な社会実現に向け、「環境・エネルギー」「デジタル化社会」「健康・安心・安全」に貢献するグローバル・ニッチNo.1を創造し続ける企業グループを目指しています。

株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

■第164期中間期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)の業績

当中間期は、電子材料事業のスペシャルガラスおよびメディカル事業の体外診断用医薬品の販売が好調に推移しました。

この結果、連結売上高は前年同期比24.1%増収の531億円、営業利益は前年同期比135.6%増益の73億円、経常利益は前年同期比84.4%増益の77億円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比53.9%増益の54億円になりました。



取締役 代表執行役社長

多田 弘行

Nittobo

2024年度より、日東紡グループは**5つの事業本部に組織体制を一新**しました。
 新たに技術開発本部を設け、持続的な成長と企業価値の向上を実現するための強力な基盤を構築します。

電子材料事業本部

電子材料用途のグラスファイバーヤーンとクロスの開発・製造・販売



電子材料用途のグラスファイバーは、電気絶縁性や耐熱性などの特長を持ち、グラスファイバーヤーンを加工したガラスクロスは、プリント配線基板用の電気絶縁基材などに使用されます。独自のガラス組成によるスペシャルガラスは、高速大容量通信に求められる低誘電率・低誘電正接、低熱膨張などの特性に優れ、データセンターや基地局の高周波部材、サーバーなどのインフラ機器からスマートフォンなどのエッジ機器、自動車まで活躍の幅は広く、その品質は世界から高い評価を得ています。

メディカル事業本部

体外診断用医薬品を中心としたメディカル事業



日東紡の100%子会社であるニッソーボーメディカル(株)が体外診断用医薬品を軸とするメディカル事業を展開しています。血液や尿などから健康状態を調べる体外診断用医薬品は、健康診断や人間ドックで使用されます。米国拠点で原料を生産し、製品化に至るまでのグローバルバリューチェーンを展開することで、高品質の体外診断用医薬品を安定的に供給しています。この供給力を活かして、炎症マーカーなど多くの項目でトップシェアを獲得しています。

断熱材事業本部

断熱材を中心とした設備材用途のガラス短繊維の開発・製造・販売



地球温暖化防止のため住宅を含む全ての建築物の省エネ化が求められるなか、グラスウールは主に住宅の断熱材として各所に使用されています。省エネの観点に加え、健康面からも高断熱住宅に注目が集まり、断熱材の高性能化が求められていることから、より高性能なグラスウールの展開を推進しています。また、船舶・車両などにも幅広く使用されています。グラスウールの製造工程においては、ガラス原料の80%以上にリサイクルガラスを採用し、省資源に貢献しています。

技術開発本部

総合研究所の組織を改め、新たに技術開発本部を設けました。基礎研究や生産技術に特化するとともに、各事業本部に移管した商品開発機能の横串を担います。高度化し多様化する顧客ニーズに応えるべく、将来を見据えた研究活動と技術力の向上を推進していきます。



複合材事業本部

プラスチック強化材料用途のグラスファイバーを中心とした複合材料の開発・製造・販売



複合材用グラスファイバーは、高い形状安定性や加工性という特長を活かし、プラスチック強化材として自動車の様々な部品、家電製品、住宅設備機器など幅広い用途に使われています。独自の技術で開発した異形断面の高性能ガラスは、通常の丸形ではなく長円形など異形の断面形状にすることで、成型品の強度を高め耐衝撃性に寄与し、変形を抑えるなどの優れた特性を備えています。この特性によりスマートフォンやパソコンなどの筐体に使用されます。

資材・ケミカル事業本部

産業資材用グラスファイバー事業およびケミカル事業、繊維事業を展開

産業資材用グラスファイバー事業は、大型建造物用の膜材から自動車用の制振材まで、幅広い用途への展開が可能です。低燃費・軽量化ニーズのある自動車や航空機分野に採用され、環境問題の改善にも寄与しています。ケミカル事業は、独自性の高い機能性ポリマーや無機・有機ナノコンポジット材(SSG)の開発、販売を手掛けています。繊維事業は、接着芯地などでこれまでに培ってきた独自の接着技術を活用し、衣料用途に限らず生活資材や産業資材へ事業領域を拡大した機能資材を提供しています。

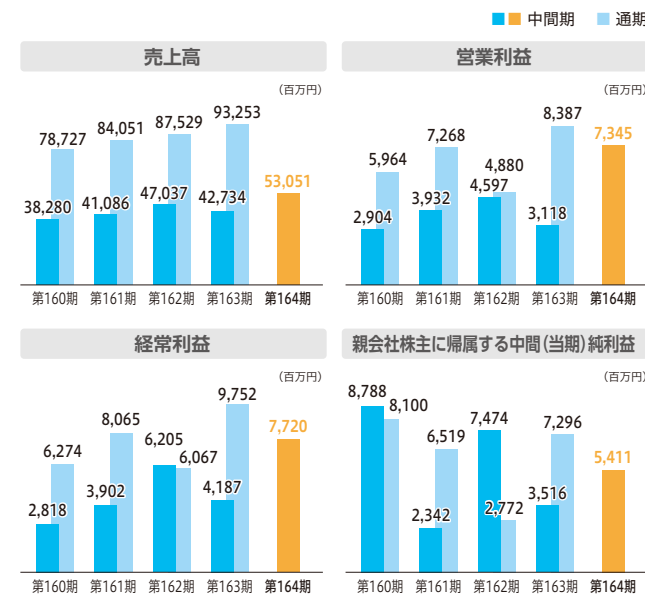


ウェブサイトリニューアルしました

デザインを一新し、サイトを訪問される方がスムーズに情報を得ることができるようナビゲーションの充実を図りました。今後もウェブサイトからの情報発信を通じ、サステナブルな企業価値向上につながるコミュニケーション活動を続けていきます。



財務ハイライト(連結)



事業概況

電子材料事業

電子材料事業では、AIサーバー向けの旺盛な需要の継続によってスペシャルガラスの販売が好調に推移したことにより、増収増益となりました。

メディカル事業

メディカル事業では、体外診断用医薬品の販売が好調に推移したことにより、増収増益となりました。

資材・ケミカル事業

資材・ケミカル事業では、販売は前年同期を上回ったものの、原材料を中心とするコストアップなどの影響を受けたことにより、増収減益となりました。

複合材事業

複合材事業では、販売は前年同期を上回ったものの、コストアップなどの影響を受けたことにより、増収、営業損失となりました。

断熱材事業

断熱材事業では、コストアップなどの影響を受けましたが、高性能断熱材の販売が堅調に推移したことにより、増収増益となりました。

